

【国際観光都市 別府市】

別府市は、大分県の東海岸の中央に位置しており、高崎山や由布岳、鶴見岳といった山々や、別府湾に囲まれた自然豊かな土地です。瀬戸内海を通り、四国・関西へと続く海の玄関口でもあります。

また、「山は富士、海は瀬戸内、湯は別府」と言われるように、日本有数の温泉地としても有名です。別府市には多くの温泉群が点在しており、その泉質や効能は様々で、いくつもの白い湯けむりが立ち上る別府市の光景は、初めて目にする者を圧倒するほどです。その源泉総数は2000を超え、総湧出量は毎分80,000リットルを超えるなど、どちらも日本一を誇ります。「別府八湯」と呼ばれる代表的な温泉地をはじめとして、地獄めぐり、地獄蒸し料理など、別府温泉にまつわる観光名所・観光名物を求めて、国内外から多くの観光客が訪れています。

このように観光都市でもある別府市には、現在約12万人が暮らしており、大分市に次いで県内2番目の人口となります。また、多くの外国人留学生や移住者も多く、人口に占める留学生割合が日本一となっています。そのため、通訳や外国語による案内板などが豊富で、外国人観光客にも優しいグローバル都市でもあります。

このように様々な魅力あふれる別府市、一度訪れてみてはいかがでしょうか。

【別府市の福祉への取り組み】

別府市には、約12万の市民のうち、約8000人以上の障害者が暮らしており、その人口比は全国比を超えた7.4%を占めます。そのため、福祉への取り組みも盛んに行われています。

1973年には、厚生労働省より「身体障害者福祉モデル都市」の指定を受け、点字カラーブロックや歩道の段差解消などの交通施設整備を実施するなど、いち早く環境づくりを開始しました。その後も福祉への取り組みは続き、2014年には障害者への差別の禁止や合理的配慮について言及した「別府市障害のある人もない人も安心して安全に暮らせる条例」が施行されました。

また、別府市の福祉について語る上で欠かせないのが、社会福祉法人「太陽の家」の存在です。太陽の家は「保護よりも機会を」「世に身心障害者はあっても仕事に障害はあり得ない」という理念の下、1965年に故・中村裕氏によって創設されました。現在でも、オムロンや三菱商事、ホンダ、ソニー、富士通などの企業が共同出資会社として提携しており、多くの障害者が働いています。

他にも別府重度障害者センターや別府リハビリテーションセンター、別府発達医療センターなど多くの拠点があり、現在も、誰もが住みよい街を目指して、福祉のまちづくりを続けています。